

# ゆうこうの家 通信 VOL.10

発行：NPO 法人 発達・心理  
相談センター「ゆうこうの家」  
住所：名古屋市天白区表山 1-1753-2  
悠幸ビル2階  
電話：052(893)6077

## ありがとう!

ゆうこうの家は今年で14年目になります。新しく建った「ゆうこうの家」も1年が経ちました。スタッフ、利用者の方ともに、使い勝手にもようやく慣れてきました。そしてこの「ゆうこうの家通信」もついに第10号。これからはいろいろな人に支えてもらいながら、今まで以上に頑張っていきたいです。

### 「個別療育」ってなに？

平成30年度の個別療育の件数は、3039回です。3039人の子供たち、ではありませんよ。先生たちが行った療育の数です。

今回はちょっと専門的なお話をします。難しいかも知れませんが、まあ、先生たちはこんなことを考えながらうちの子と接しているのねー、程度に流してくれればうれしいです。

ゆうこうの家は**早期療育、長期支援の視点を大事にしています。**ABA（応用行動分析）アプローチを中心に、**言語面、学習面、社会面、運動面**など全般的な支援を行っています。さて、もうめんどくさくなってきましたねw けれど今回は「**言語**」「**学習**」「**社会面**」「**運動面**」この4つについてお話させていただきます。成長がゆっくりゆっくりな子どもたちについて。さあ、行きますよー。

## 言

語について。

2～3歳の小さい子から、特別支援学級・学校に在籍するお子さんを対象にお話します。

椅子にも座れなかったり、大人の真似もできない、言葉も発さないお子さん、いますよね。度合いはそれぞれですが、だんだん、少しずつ、できるようになっていきます。椅子に座ったり、人の真似をするようになったり、言葉を話せるように。

さて、周りからの刺激と自分自身の努力とか時間というお薬のおか



げで成長し、言語がある程度発達してきたら、文字や数字の学習を進めていきます。

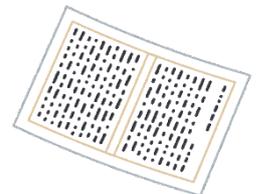
これは、お勉強という意味合い以上に生活に活用することや、その後の学習をスムーズにしてくれるツールとしても活用できるため、重要視しています。文字を習得してくれると、言葉だけで指導していくよりはるかに子どもの理解率が高まるんです。

次に数字。数字を覚えて時計の見方を覚えると、先の見通しを持つことができるようになります。それだけでパニックが減ったりします。ここからお金の理解まで進むと、買い物や自分の趣味や時間の過ごし方など、生活活動の幅を広げていくことができるようになります。さあ、次に行きますよ。

## 学

習面について。

通常学級に在籍する小学生の場合です。



漢字が覚られない、上手く字

が書けない、算数の計算ができないといったお子さん、いらっしゃるいませんか？ これは記憶、ワーキングメモリー、空間認知の問題かな？ と思えたらまずは、知能検査を行います。その結果を先生たちはよく精査します。そして効率の良い方法を探していきます。子どもの特性を十分に理解して、なるべく子どもに負担をかけず、子どもの能力に合った学習内容を取捨選択していく、つまりその子だけのフルオーダーの処方箋をひねり出します。

それからコミュニケーションが苦手なお子さん。あるあるですね。

日記、作文、感想文などが苦手なことが多いかと。

たとえば、文を作るということは、どういう点に気をつけ、どういう点を書いていくと良いかを教えてあげると、それだけでスラスラ書くことができるようになる子もいるんです。

次に特別支援学級・学校のお子さんのお話です。

主に生活に即した内容の学習支援を行います。つまり先ほど述べた、文字・数字の学習に加え、作業課題、余暇の拡大など、将来を見越したより現実的な面に焦点を当てて課題を設定していきます。過去のゆうこう通信で見たことありませんか？ 物を作ったりみんなでお出かけしたお話や写真があったでしょう、あれらは「作業課題」「余暇の拡大」に繋がっているのです。

会面に関して。

**社** 主に通常学級に在籍する小学生たちについてになりますが…。子どもたちによく見られるシーンをいくつか挙げていきましょう。「あるある！」と頷く親御さんも多いかと。

家や学校で癩癩が多い、勝ち負けにこだわる、上手くコミュニケーションがとれない、友達と仲良く遊べない、友達の輪に入れない、人前で固まってしまう。「あるあるw」

ここで今回のタイトルである「個別療育」が出てきます。

よく「うちの子を余暇支援教室に入れて欲しい。他の子どもたちと一緒に集団療育してほしい、うちの子がよその子と触れ合っているところを見たい、同じ発達障害児だから混ぜても分かり合えるはずだ」という要請を受けることがあります。

無理です。

まあ、聞いてください。

成長と共に子供たちは家庭の外とも接する機会が増えていきますね。他人と接するには社会的なスキルが必要とされます。社会的なスキル？ 誰だって自然に覚えたわ、空気読めや、とか言われるアレです。結構傷つくアレです…。

先生たちは子どもの特徴を掴んだら、その子に合ったその子だけの処方箋を考えます。

次に子どもたちと一緒に考えて、そして一緒に練習していきます。

その場その場で適切な行動をとることで得られるメリット、反対にその場に不適切な行動をしちゃって、自分も周りも戸惑い、不愉快になるデメリットについて、子どもと一緒に考えて練習するのです。やり方は子どもによって千差万別。特効薬はありません。

TPO を考えて様々な社会的スキルを扱いこなせるなら何の問題もないんですよ。

並行して、家庭場面においても考えます。癩癩を起こされると親は困ります。親が困ると、子どもも困るんです。そうやって親たちにもできるだけ寄り添って、家庭での困りごとを減らしていきます。

個別療育で落ち着いて苦手なことの練習ができようになったら、ここで余暇支援教室を勧めていきます。余暇支援教室の中で、同年代の子ども同士の関りを通して、たくさん課題が見えてきます。個別療育と余暇支援教室の両方で支援していくことが、社会性を伸ばす最も効率の良い方法だと、ゆうこうの家は思っています。

ただ、小学校、中学校生活の中で社会性を伸ばすことよりも優先されることがあります。

**二次障害の予防！** です。

不登校、引きこもり、うつ、行動障害、非行などなど。親も困るし周りも困る。何より子どもが一番辛い！

予防は大事ですよ。そのために、ゆうこうの家では環境と上手く折り合いをつけていくことを最優先に考えています。

中学生や高校生から来るお子さんの場合、何かしらの二次障害の状態で来ることがほとんどです。大きくなってから来るお子さんの場合は、小さい頃から通っているお子さんとは異なり、対応はぐんと難しくなります。心身の成長とともに、他者を意識し始める思春期の難しさなどが加わり、親の思い以上に本人の意思が優先される時期になっていますから。

思春期や成人期の方を担当すると、早期療育の大切さを改めて実感します。できれば、小学校低学年、遅くとも中学年ぐらいまでに、ある程度のルール作りや支援体制を整えて挙げて欲しいなあ。

でも「なんか他の人と違うなあ」「おかしいなあ」

「なんとかしたいなあ」と自覚してくれば、そこから第一歩が進む、と思います。

**運** 動面に関して。要望に応じて、縄跳びやボールの投げ方、卓球などを指導することもあります。運動面や社会面を中心に希望される方は、余暇支援教室のスポーツ教室や卓球教室をお勧めしています。

スポーツ教室では、柔らかいボールを使ったバスケットボール、サッカー、風船バレー、長縄など、数カ月ごとに種目を変えて様々なスポーツを通して、身体の使い方や集団でのルールを学んでいきます。

卓球教室は、平成30年度から、小学生、中学生、高校生、女子、特別支援学級・学校のお子さんを対象に5つの卓球教室を設けて、特に力を入れています。卓球は、生涯スポーツなので、年齢を重ねても続けることのできるスポーツです。また、やればやるほど目に見えて上達していくため、ゆうこうの家の卓球教室で自信をつけて、学校の部活に入った子が何人もいますよ。

以上、ゆうこうの家の支援の「4つ」でした。

## スタッフ近況報告

平成30年度から31年度にかけて、スタッフの入れ替わりが最も多く、利用者の方たちにもご迷惑をおかけしました。

### 【退職】

#### 榎本 みお (えのもと みお)

6年間、ゆうこうの家のスタッフとしてお世話になりました。この6年間、個別療育、スポーツ教室、女子グループリーダー、宿泊行事や就労実習などの様々な行事を通してたくさんの方々との出会い、たくさんの思い出を共有させていただきました。私にとって、かけがえのない思い出となりました。これからは、地元である三重県で色々なことにチャレンジしていこうと思います。これまで、本当にありがとうございました。

#### 松浦 佑規 (まつうら ゆうき)

8年間、大変お世話になりました。ゆうこうの家の利用者様、スタッフの今後のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

### 【産休】

#### 川崎 志帆 (かわさき しほ)

4月から産休に入りました。また皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

### 【入職】

#### 兒玉 和志 (こだま かずし)

趣味は、アウトドアで、最近は保育園児の娘と公園で焚き火をしたり、テントを張ったりして楽しんでいます。今までは、クリニックや病院でカウンセリングや療育をしてきました。これから、ゆうこうの家のみなさんと楽しくお話しするのを楽しみにしています。どうぞ、よろしく願いいたします。

#### 近藤 那香 (こんどう ともか)

趣味は、アニメ鑑賞や天気の良い日に散歩をして新しいお店を発掘することです。ゲームをする事も好きで、最近はずっとマイクラをやっています。もしオススメのアニメやゲームがあれば教えてください！

#### 植木 伽奈 (うえき かな)

趣味は、美味しいものを食べる事、寝ること、Youtubeを見ることです。学生のころ、ボランティアとしてゆうこうの家に関わらせていただいております。1年ぶりに会ったお子さんたちの成長ぶりに大変驚いています。これからは、スタッフの一員として精一杯尽力いたしますので、よろしく願いいたします。

### 【復帰】

#### 宇佐美 優 (うさみ ゆう)

皆さまのご理解とご協力のおかげで、無事に復帰させていただくことになりました。はじめましての方も、お久しぶりですの方も、よろしく願いいたします！

**【継 続】**

華山 将 (はなやま まさし)

早いもので、小さい頃から担当していた子どもたちは、高校生、大学生、社会人になりました。こんなに長く多くの子どもたちの成長を見せてもらえる仕事は、他には中々ないように思います。社会人の子たちと、仕事の話や余暇の話、くだらない話をするのが大好きです。また、僕のくだらない発言に、適切に突っ込みを入れてくれる子たちとのやりとりも大好きです。会話はできなくても、療育の中でたくさんのやりとりを通して、お互いに分かり合えている(ように思える)子は、大きくなってとても可愛く思えます。今後とも、よろしくお祈いします。

田中 裕美 (たなか ゆみ)

今年度も引き続き、ゆうこうの家で子どもや親御さん達と関わらせていただきます。まだまだ至らない点も多くありますが、皆さんが笑顔になれる時間が増えるような関わりを今後も変わらず続けていけたら良いなと思っています。ちなみに、最近の私を笑顔にしてくれるのは…、(昔から変わらず) 真っ赤な苺と、苺みたいなほっぺをしているくまモンです！今年度もよろしくお祈いいたします。

李 淳美 (り すんみ)

趣味はB級グルメと読書、スポーツ観戦(サッカー)。実は苦手なことがいろいろあり、「どうやったらうまくいく?!」とあれこれ知恵を絞って日々奮闘しております。そんな私ですので、みなさんと共に悩み、共に成長できる、ゆうこうの家が大好きです。どうぞ宜しくお願い致します。

加藤 文昭 (かとう ふみあき)

鉄道クラブも2年目を迎え、毎週土曜の午前中に、ますます充実の時間を楽しく過ごしています。プラレールやNゲージを使ったり、乗車体験を語り合ったり、活動は様々ですが、一人一人の参加者から沢山の事を学ばせてもらって幸せな限りです。

今後とも、居場所づくりだけでなく更なる自立に向け

て、少しでもお役に立てたらと願っています。

**夏合宿の様子**

平成30年度からは、今までのキャンプとは少しお別れをして、新しく余暇支援教室の夏合宿を行いました。日頃、活動して



いる悠幸ビルの3階を利用して、1泊2日の宿泊を余暇支援教室毎に計5回行いました。よく遊び、よく作り、よく食べ、の夏合宿となりました。



こちらは、鉄道クラブの様子です。部屋一面にプラレールを敷いて楽しめました。このまま寝たいという声もありましたが、布団を敷くスペースがなかったので、みんなできれいに片づけをしま

した。

また、鉄道に関するテストを作成して、みんなで解き合うこともやっています、かなり本格的な鉄道試験に、ただただ感心させられていました。



**編集あしがき**

このお話を受けた時は、「年に2回は出したいなあ…」などと調子のいいことを思っていました、実際は年1回でもとても大変なことでした。毎年4月ごろの発行を心がけていながら、不定期な発行となり…、レイアウトも毎回まちまちな「ゆうこうの家通信」もめでたく第10号を迎えることができました。これも代表の魚住先生や華山先生をはじめスタッフの方々、そしてゆうこうの家に通うお子さんとそのご家族のご協力のおかげです。ありがとうございます。 K